

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105532		
法人名	有限会社 ハートサプライ		
事業所名	グループホーム 小鳥の森の家		
所在地	岡山県岡山市東区南古都734		
自己評価作成日	平成29年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105532-00&PrefCd=33&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成29年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「介護するのではなく一緒に暮らす」をモットーに介護はしてあげるものでも、させてもらうものでもなく、人が共生していく上で人間としての行為、行動の一つだと考えます。利用者も職員も人が全てそうであるように、通じ合える部分で通じ合い、理解し合える部分で理解し合い、お互いを気遣いながら一日、一日を御機嫌よう暮らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「小鳥の森の家」は近くに「三徳園」、ホームの前には中学校があり、登下校の生徒との挨拶や触れ合い、部活動の熱気が伝わってくる環境にある。「介護するのではなく一緒に暮らす」をモットーに、人としての尊厳を守りながら、その人らしさを大切に、利用者と職員が共生しているホームである。地域の人から「ここは、利用者と職員が区別がつかない。分からない」と言われた事もあり、お互い人間同士尊重し合い、垣根のない関係作りが出来ている。理念の「怒」は「己の欲せざる所は人に施すなかれ」という孔子の教えで、介護の原点として代表者の思いを職員に示したもので、ホーム全体にこの思いが貫かれている。職員は創設以来、顔ぶれが変わることなく、相互のコミュニケーションがよく取れており仲も良い。併設のデイサービス共々、地域と共に歩み、地域に貢献しているホームに今後も期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「怒」を理念に掲げ人を愛すること、ゆるすことをベースに利用者の個々の人格を受け止め愛情を持って、日々のケアを実践し管理者と職員は理念を共有している。	創設以来「怒」の理念は一貫してぶれることなく、職員は一人ひとりの気持ちを大切にしながら日々のケアに取り組んでいる。「人の尊厳とは介護するのではなく一緒に暮らす事」とあるという代表者の思いは確実に職員にも浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進協議会を通じて地域住民との交流がある。入居者の近所の方、ボランティアの方々も来訪下さり楽しんでいる。直ぐ側には中学校もあり生徒たちの登下校のあいさつが触れ合いにもなっている。	併設のデイサービスの各種イベントに地域の人の多数の参加があり、GHの利用者も参加・交流して楽しんでいる。利用者が外部の人との交流を図ることに取り組んでおり、今後の計画として、母親と幼い子供が集い、ホームで交流することも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者は地域住民の方々の認知症を抱えた家族の話を聞いたり相談や対応をしている。ボランティアの方のも用紙や見学、実習生の受け入れを行い理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み内容や具体的な課題に対して委員の方々より貴重な意見を頂いている。その内容を検討してサービスの質の向上に役立っている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、市の職員、民生委員、家族会の代表、地域の人、併設するデイサービスの職員等の参加がある。活動報告や情報交換をしながら、「災害時の備え、対策について」等、参加者間で有意義で活発な意見交換をしている。	2ヶ月に1回、定期的に行行政、地域の人、家族等が参加して、とても有意義な会議が出来ているので、この素晴らしいホームの運営を公表し広く知ってもらう為にも、今後は市の指導を実行に移して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上に疑問や確認事項、取り組み等について、その都度市担当者に尋ね、それらの意見や助言を活かしてサービスの質の向上に役立っている。	ホームの近くに東区地域センターがあり、毎回運営推進会議に担当者の参加が得られているので、情報提供を受けたり、ホームの実情をよく理解してもらっている。何かあれば、その都度、市の事業者指導課に電話して相談し、助言や指導を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が絶対にしてはいけないことと周知徹底している。玄関や他も施錠は行わず外に出たがる利用者の行動を常に目を配り注意をして危険防止に努めている。	拘束の対象となるような事例はないが、家族に了解を得た上で、気分の落ち着かない時には家族に電話して話をしてもらおうと落ち着く人もいる。また、好きな趣味の話や外に出て気分転換をしてもらおう事もあり、職員は「言葉の抑止」にも注意しながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、職員会議を通じて高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち理解を深めるように努めている。人権尊重と介護の実践に各自が誇りを持てるようなケアを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体が権利擁護に関する制度を書物やパンフレットで学んでいる。また市の研修にも参加し内容を職場にて話し合う機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には代表者、管理者、介護支援専門員が契約書、重要事項説明書を基に丁寧な説明を行い不安な事柄、疑問点を尋ねて頂き、理解と納得が得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関、ホール内にご意見ノートを設置しているが書かれていない。面会時には常に利用者を交えて意見要望を尋ねている。必要事項は家族会の会長と共に推進会議などに提案するような機会を設けている。	年2回の家族会では、利用者・家族・職員で夕食やドライブに出かけ、親睦と交流を図っている。家族の面会時に状況報告をし意見や要望を聞いたり、毎月の請求書と一緒に写真と一筆箋を添えて送付している。その他随時、状況に合わせて電話やメールで連絡をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からミーティング、談話等でコミュニケーションを図っている。職員からの意見や要望を出し合い易い環境を心がけ、反映させるように努めている。	職員の定着率が良く、創設当初からあまり顔ぶれが変わっていない。夜勤専従の職員が2名いるのも有り難い。現在「人間の尊厳」をテーマに、全職員に日々のケアで心がけている内容のレポート提出の課題を出している。職員間のコミュニケーションもよく出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常時居り、職員の実績や勤務状況を把握し易い。気軽に個人面談を実施し、意欲を持って就業できるように考慮している。また福利厚生充実を図るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	私達は命と心を預かる仕事をしています。そのように考えるとき、内外の研修を受けること、働きながらのトレーニングは自己研鑽に努めることは重要であると考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や地域との同業者との交流を持ち勉強会をしたりしている。現状の問題点を話し合い、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に御本人の入居に対する不安や心配事をしっかりと把握できるように度々、話し合いをゆったりと持っている。その上で安心して頂けるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に御家族が抱えている不安や現時点での困りごと、また要望をじっくりと傾聴させて頂き信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要とされ何に困られているかをアセスメントをして見極め、真のニーズをつかむようにするための面接後に暫定プランを立て意向に沿いつつ検討し再プランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する一される関係では一切なく一緒に過ごし学び支え合う関係にある。利用者とのコミュニケーションが早期に図れるように御本人の想いに共感し笑顔で接するようにを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHのケアの方針や方法を共通理解して頂く為の話し合いを行ったりコミュニケーションを図るようにしている。面会しやすい雰囲気であり一同が歓迎して接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の腎性、生活歴を把握し支援に努めている。知人等の来所で楽しい時を過ごされることが多い。また馴染みの場所へ外出支援することもある。	日頃から家族の面会や、近隣に知人が多く頻繁に面会のある人もいて、訪問しやすい雰囲気作りをしている。その人の希望に沿ってドライブがてら自宅に帰る、行きつけの店に買い物に出かける等の個別支援もしており、馴染みの関係や場所の継続を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性や生活歴を把握しリビングでの居場所を配慮し孤立せず楽しく過ごせるように工夫をしている。一緒に生活する仲間意識が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	止む無く入院により退所された利用者に面会を行い、家族よりその後の情報を得て関係を維持している。ホームに来所される家族には出来る限り相談をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から利用者の真の希望や以降の把握に努めている。把握が困難な場合には家族からの内容を参考に本人本位に検討を重ねている。	日頃の関わりの中で、利用者が何気なく発する言葉や行動から、様々なサインを読み取り、思いや意向を共有するように努めている。しかし、折角の気づきも、記録に残さないと伝達や共有が時間の流れと共に薄くなるので、プランに反映させる為の工夫が必要である。	介護記録様式の下欄に「介護経過」の記入欄があるが、空白が目立ち有効に活用されていないと感じる。折角の欄なので「特記」や「気づき」等、別の形で活用するのも良い。利用者の意向を把握しプランにつなげて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人独特の生活歴、暮らし方、生活環境、個性や価値観、利用経過の把握に「努めている。また生きがいを見出すように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録書類の充実を図り職員が速やかに情報を共有するようにしている。異常時の早期発見で速やかに医療との連携を図っている。有する力の現状把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族や主治医(時に)代表者、管理者、ケアマネ、職員参加の担当者会議を行い意見を出し合い介護計画を作成している。必要に応じたモニタリングも行い計画の見直しを行って居る。	「笑顔の多い暮らし」を実現させる為のプランを目指し、職員間で話し合いながら現状に則したプランを作成している。一人ひとりの心身の状態を把握し、モニタリングを重ね、その人が安心して楽しく暮らす為の目標を設定してケアの方向性を作っている。「心のケア」を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに実践、結果、気づき等を記録し職員間での情報共有を行って居る。計画の見直し定期的なモニタリングを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じた多様なニーズに対していきケアを明確化していく必要があり実践していくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の知人、定期的なボランティアによる催し、談話を楽しみにされている。散歩で隣の中学生との会話、職員と共に自然とのふれあいやゴミ拾いなどで本人の出来る限りのことをされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医であり往診時には心身ともに満足されて受診されている。常に病状報告して気になる点は速やかに指示を受けている。	利用者全員が同じ主治医であり、しっかり話を聞いてもらえるので利用者の信頼も厚く、毎日でも往診可能と聞く。他科受診は職員が同行している。月2～3回の訪問歯科で口腔ケア・義歯調整、系列の小規模や併設のデイの看護師の協力もあり、安心して生活が来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経過記録、情報交換ノートを通じて速やかな伝達に努めている。報告を受けることにより退所出来ている。症状把握で連携を密に図り医療支援に繋げていっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに介護簿書を持参し医療機関と利用者の情報共有を図っている。出来る限り入院先に面会に行き家族と共に症状を把握し退院計画づくりを進めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者には早くから主治医、家族との連携を図り指示のケアを行っている。終末期の在り方では早期から家族と話し合いを重ね主治医、ホームの方針に合わせた説明を行っている。	これまで6名の看取りを経験し、昨年度はホームで2名の看取りをした。退院して1週間後にホームで逝った人、ターミナル期で家族に見守られながら旅立った人、それぞれ最期まで家族が付き添い人生の終焉を迎えた。中には本人の強い希望で自宅に帰った人もいる。今後も本人・家族の希望があれば、医療機関と連携を取りながら出来る限りの支援をしていこうと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法、観察ポイントのマニュアルを作成し実施している。応急手当てについてはマニュアル作成も必要であり実施している。事故を未然に防止するよう考慮し職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し誰でもすぐに活用できるようにしている。利用者と共に避難訓練を夜間を想定して実施。推進会議で地域での協力体制の話し合いも行っている。	運営推進会議で災害対策について話し合っており、大雨警報発令の時には、GHは車椅子用のスロープがある近くの公民館に避難することになっている。地域の人、家族、併設のデイとの応援体制が出来ており、近くの公民館長も協力的である。3日分の備蓄もあり、定期的に点検している。	運営推進会議で参加者からの質問にもあるように、グループホームの裏側は山の斜面になっているので、集中豪雨や地震によるがけ崩れ等の想定外の事態も考慮に入れ、災害対策をしっかり話し合ってみて下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しその人らしい威厳のある姿を大切にしている。以前の職業での呼び方、名前もきちんと呼ぶように守っている。ケアでの言葉かけも注意するように周知徹底している。	人としての尊厳、利用者の気持ちを尊重というホームの理念に沿って、自己決定が出来るようなケアに職員は日々取り組んでいる。利用者との時間でも見つけて会話を楽しみ、コミュニケーションを図るようにしている。言葉かけにも十分配慮が感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の本人の想いや希望を表現しやすいようにコミュニケーションを図り生活の中からの気づきを養い自己決定の支援を行いように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、希望を聞き入れながら柔軟な支援を行っている。自由にゆったりと過ごして頂けるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好きな柄や色の洋服を選んで頂けるよう支援しおしゃれへの関心が出来ている。散髪も定期的に要望を取りれて行い髭剃り、爪切りも出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	かなり高齢者が多く、常にそのことを考慮した季節感のある献立作りをしている。偏食等の嗜好に考慮した献立も行って居る。職員と共に食事の準備、食事、片付けも行っている。	毎週水曜日には「お刺身」が食卓にのぼる。地元の鮮魚店から買ってくるそうだ。職員が利用者の好みを聞いて献立を考え、買い物に行く。毎食手作りの食事は台所から漂う匂いや音で、食べる前から五感を刺激し、利用者にとっての「元気の源」になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量を記録し個々の状況に応じ(便秘、発熱等)飲水を促したり注意している。合わせて小まめなバイタル測定も行っている。嗜好を考慮した品も個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けとケアの介助は実践している。ケアの重要性は職員が理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況、支援状況が分かるように介護者情報と介護計画に記入し把握している。その方のパターン状況、習慣を掴みトイレ誘導を行い排泄への自立支援を行っている。	布パンツに近い使用感や気持ち良さ、自尊心等を大切にし、紙パンツのみで対応している人が多い。パットを併用している人は2名。全員、トイレ座位での排泄を促し、個々の排泄リズムを見ながら、適宜声かけ、誘導をしている。必要な人には夜間用にポータブルトイレを置いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な誘導で自然排便を試みる。食事の献立も野菜を多く取り入れ便秘予防の工夫がなされている。排泄記録を取り難しい場合は主治医の指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表は作成しているが利用者の意向を優先している。健康状態の把握は詳細に行って居る。入浴を安心して楽しんで頂けるように配慮している。	週2日以上の入浴を基本としているが、その人の気分や体調によって柔軟に対応している。一对一での介助で楽しく入浴出来ているが、リフト浴対応の人も1~2名いる。入浴拒否がある人には、“入浴”と言わず「トイレに行きましょう」等と誘って対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	証明、騒音当の環境調整を行い、体調良好時の昼間の午睡を調整して夜間時には安眠できるように配慮している。体調変動に合わせた休息支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬、効能は職員全体が分かるように明記している。服薬カレンダーから配薬箱に入れる時も再度確認している。服薬時には確実に服薬されている事を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中から利用者の持ち味が発揮できるように支援している。歌、詩吟、川柳、塗り絵、昔は無し等の楽しみも季節に応じて変化もしている。食後の膳拭き、洗濯物たたみ等も希望で行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望や状況に応じた外出支援はできている。家族の面会時の外出、ホームよりの外出、公園の散歩、買い物、行事の参加等、体調を考慮して実施して楽しまれている。	以前より高齢化が進み外出が難しくなってきたが、出来る限り機会を設けてドライブや外出支援に取り組んでいる。家が気になる人は家族と一緒に時々自宅を見に帰ったり、家族の協力を得て外食・外出の個別支援をしている。近くの公園に散歩に行き、四季折々の景観を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方がほとんどであり、金銭を所持していないので指示は出来ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人、知人、親せき等からの電話を取り次いだり、希望に応じて掛けたりしている。手紙を書きたい方も支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングルームへは四季折々の生け花で季節感を出している。共用の空間が不快や混乱を招くような刺激がないように配慮や工夫をしている。	広いリビングに畳み敷きのコーナー。ソファにはお昼寝中の猫がいて、ベランダやリビングには鉢植えが並び、明るい陽光を浴びている。まるで、どこかの邸宅の一室のようである。新聞を読む人、塗り絵をする人、書き物をしている人、利用者は思い思いに過ごしている。清潔で明るく居心地の良い環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置、足の岩盤浴、低周波を設置してリラックスしながら思い思いに居心地よく過ごせている。居場所づくりや環境づくりに工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物を家族と相談しながら置き、本人が居心地よく過ごせている。家具の配置も希望に応じて対処している。	それぞれに炬燵、テレビ、仏壇、椅子等を持ち込み、自作の絵等の作品を展示している。自室の炬燵に入り、自分や娘のセーターを編んでいる人や、文房具を揃え俳句・川柳を創作する人もいる。これまでの生活の延長のような、自由でその人らしい暮らしが継続されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には目印を飾り理解できるように工夫している。廊下には障害物を置かないように注意している。出来る限り出来る事は本人にして頂いている。		